

児童 4年2組 男16名 女17名
 指導者 山本 賢治

心に残ったことを感想文に書こう

中心学習材 「プラタナスの木」(光村図書4年下)

<付けたい力>

- ◎物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方や考え方の違いに気付く力(読オ)
- 心に残ったことを伝えるために、引用したり要約したりする力(読エ)

<単元を貫く言語活動>

物語を読み、自分の体験と比べながら感想文を書く。

<主体的な思考・判断・表現を促す手立て>

- ・第1次で、登場人物の年代が違ういくつかの物語に触れ簡単な感想を比較することで、同年代の子どもが出てくる物語を自分に引き寄せて読むことへの意欲付けを図る。さらに、同じ物語を読んでも、考え方や経験の違い、着目した文や言葉によって感想に違いが出ることの面白さに気付かせ、学習意欲の向上につなげる。
- ・第2次で、登場人物の会話や行動、出来事に着目し、登場人物の気持ちの変化や題名「プラタナスの木」が物語の中でどのような役割を果たしているのかに目を向けて、自分の体験と比較して読むことで、自分の感想とその根拠との関連を明確にすることができるようにする。

1 子どもと単元について

(1) 子どもの実態

子どもたちは、前単元の文学的文章の学習において、登場人物の性格や気持ち、関係の変化などについて、読んで考えたことを話し合う学習を行った。登場人物の性格や気持ちを読み取るために、話全体を通しての会話や行動に着目することが大切であることを学び、様々な叙述に目を向けて読み取ることができるようになってきている。また、考えたことを話し合う学習の中で、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができるようになってきている。本単元では、これまでの学習を生かし、さらに感想の根拠となる文章を引用したり、要約したりして感想をまとめる力を高めたい。

(2) 学習材について

中心学習材「プラタナスの木」は、学習者と同じ4年生が登場人物の作品である。仲良しな4年生の遊び友達が、いつも遊んでいた公園でのおじいさんとの出会いやプラタナスの木がなくなってしまった出来事を通して、自然に対する思いや考え方が変化するという内容であり、何かをきっかけにして登場人物の気持ちが変わるといことが捉えやすい作品である。また、登場人物が同年代であることから、登場人物の会話や行動に同化したり、共感したりしながら読むことができる。そして、「おじいさんの言葉」、「プラタナスの木の存在」、「マーちゃんたちの行動」など様々な角度から感想をもつことができるため、友達との考え方、感じ方の違いへの気付きを促すことができる学習材であると考えられる。

(3) 言語活動の特徴と系統

本単元では、「物語を読み、自分の体験と比べながら感想文を書く」ことを、単元を貫く言語活動として設定する。以下の特徴を通して、付けたい力の確実な育成を図る。

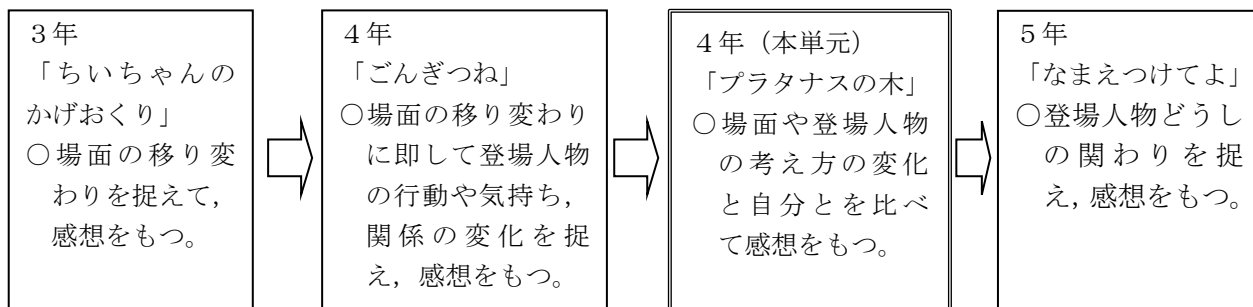
<読書感想文の構成要素>

- ・心に残ったこと
- ・「始め」「中」「終わり」の組立て
- ・心に残った言葉・文・出来事(引用)
- ・自分の体験と比べて考えたこと
- ・今までと考えが変わったこと

<読みの観点>

- ・題名(「プラタナスの木」の存在)
- ・あらすじ(場面の様子や出来事)
- ・登場人物の性格や気持ちの変化
- ・登場人物の会話、行動
- ・自分の体験の想起(直接体験や間接体験とのつながり)

「物語を読み感想を述べ合う」という言語活動の系統は、以下のとおりである。



(4) 指導に当たって

指導に当たっては、次の三つを大切にする。

一つ目は、単元を貫く言語活動である「物語を読み、自分の体験と比べながら感想文を書く」ことへの意欲付けを図ることである。そのために、単元の導入の段階で、登場人物の年代が違ういくつかの物語に触れ、簡単な感想を交流することを通して、同年代の登場人物が出てくる物語は自分に引き寄せて読むことができることに気付かせたい。さらに、同じ物語を読んでも、考え方や経験の違い、着目した文や言葉によって感想の違いが出ることの面白さに気付かせ、「読みを深めるために感想を交流する」という活動への意欲の向上につなげていきたいと考える。また、これまでの経験から、「感想の大切さは分かるが、どこに注目したり、何を書いたりしたらよいか分からない」という子どもたちの思いを大切に、読みの観点を明らかにするという課題意識を明確にもたせたい。

二つ目は、自分なりの感想をもつために、読みの観点を明確にして主体的に読み進めることができるようにすることである。そのために、第1次で確かめる「感想文に書くこと」と初発の感想を重ねながら、読みの観点を「登場人物の気持ちの変化」「変化のきっかけになった出来事や人物」「プラタナスの木の役割」などと設定し、読みの課題と観点を明確にすることで、主体的な読み取りができるようにしていきたい。また、その中で、「自分だったら」「自分自身の気持ちの変容」などということ意識させていくことで、自分の感想とその根拠となる叙述や体験とを関係付けて、物語を自分に引き寄せて読むことができるようにしていきたい。

三つ目は、読み取りを深めたり、広げたりするために交流する場を意図的に設定することである。「自分の考えに必要なことを補うため」「自分の考えを確かめたり、広げたりするため」の交流の場を一単位時間の中に位置付けることで、より根拠を明確にして読むことができるようにしていきたい。また、交流を通して、共通点を意識しながらも、感じ方の違いの面白さにも気付かせていきたい。

これらの学習を通して、物語を読み、自分の体験と比べて感想もち、その感じ方や考え方が一人一人違うということに気付く力を高めていきたい。

2 単元の指導目標

- 物語を読み、心に残ったことをもとに、感想文を書こうとする。 【関心・意欲・態度】
- 物語を読んだ感想を交流し、友達との感じ方・考え方の違いに気付くことができる。 【読むことオ】
- 心に残ったことを伝えるために、根拠となる叙述を引用したり要約したりすることができる。 【読むことエ】
- 感想を表すための語句や表現を増やすことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(オ)】

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
○自分の体験と重ね合わせながら「プラタナスの木」を読み、心に残ったことを基に、感想文を書こうとしている。	○「プラタナスの木」を読んで書いた感想文を読み合い、自分の感想やその根拠と友達の感想やその根拠を比べることで、根拠となる叙述や体験によって感じ方に違いがあることに気付いている。 ○心に残ったことの根拠を明確にするために、登場人物の心情の変化や出来事などの叙述を引用したり、要約したりしている。	○自分の思いや考えを表すのにふさわしい言葉や表現方法を考え、活用している。

4 学習指導計画（全8時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な手立て】

第1次
単元の学習について、課題意識と見通しをもつ。
(2時間)

- ① 登場人物の年代が違ういくつかの物語を読み簡単な感想を交流することを通して、「感想を交流する」という単元のゴールを確認し、学習の見通しをもつ。
- ② 中心学習材「プラタナスの木」を読み、初発の感想を基に、課題意識や読みの観点をもつ。

<評価>

- ① いくつかの物語の感想交流を通して、単元の見通しをもっている。《ノート・発言》
- ② 初発の感想を基に、読みの課題をもつことができている。《ノート・発言》

簡単な感想の比較を通して、同年代の子どもが出てくる物語を自分に引き寄せて読むことができたり、感じ方に違いが出ることのおもしろさに気付かせたりすることで、学習意欲の向上につなげる。

第2次
中心学習材「プラタナスの木」を、登場人物の気持ちの変化や情景などについて、自分の体験と比較しながら読む。
(3時間)

- ③ 読みの観点を基に、作品の大体の内容を捉える。
- ④ 登場人物の行動や出来事を中心に、話の中で大きく変わったことや変わらないこと、「プラタナスの木」の役割について考える。
- ⑤ 登場人物の行動や気持ちの変化、出来事に注目し、感想の中心になることをまとめる。
(本時)

<評価>

- ③ 「登場人物」「時」「場所」「出来事」「結末」などを表す言葉に着目し、作品の大体の内容を捉えている。《ノート・発言》
- ④ 登場人物の会話や行動を根拠に、作品の中で大きく変わっていることとそのきっかけや変わらないことを読み取っている。《ノート・発言》
- ⑤ 叙述や自分の体験を基に、感想の中心になることをまとめている。《ワークシート・発言》

登場人物の会話や行動、出来事に着目し、登場人物の気持ちの変化や題名「プラタナスの木」が物語の中でどのような役割を果たしているのかに目を向けて、自分の体験と比較して読むことで、自分の感想とその根拠との関連を明確にすることができるようにする。

第3次
心に残ったことを感想文にまとめて交流し、単元の学習を振り返る。
(3時間)

- ⑥ 感想文の組立てを確認し、感想文を書く。
- ⑦ 友達と感想文を読み合い、互いの感想文のよさを考える。
- ⑧ 単元の学習を振り返り、身に付いた力を確かめる。

<評価>

- ⑥ 心に残ったことを伝えるために、本文を引用したり、要約したりしながら感想を書いている。《ワークシート》
- ⑦ 感想文を読み合い、一人一人の感じ方の違いに気づき、それぞれのよさを考えている。《ワークシート》
- ⑧ 単元を振り返り、感想をもったり書いたりするための方法や読みの観点が向上したことを実感している。《ノート・発言》

読みの観点と感想文の組立てを比較しながら振り返ることで、感想の持ち方を確認し、活用の意識を高める。

【日常生活場面】

○物語を読み、心に残ったことを中心に、必要に応じて引用したり、要約したりして感想文を書く。(日常の読書)

5 本時の指導 (5/8時)

(1) ねらい

登場人物の会話や行動、気持ちの変化などの叙述を基に、心に強く残ったことをまとめることができる。

(2) 展開

学習活動	思考を促す発問や指示 (◎) と反応例 (・), 学習内容	指導の手立て (○) と評価
1 学習課題を確認する。		
「プラタナスの木」を読んで心に強く残ったことをまとめよう。		
2 課題解決のための見通しをもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【心に残ったことを書くための観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感できる登場人物の行動 ・心に残った登場人物の言葉 ・登場人物の気持ちの変化 ・自分の経験と比べて感じたこと </div>	○これまでの読み取りを基にして、心に残ったことを書くための観点を確認し、見通しをもって学習できるようにする。
3 「プラタナスの木」を読んで、心に強く残ったことや感じたことを一文で書く。	◎「プラタナスの木」を読んで、心に強く残ったことを一文で書いてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・木が私たちを守っているということを強く感じた。 ・おじいさんの言葉によって、木の大切さが分かった。 ・マーちゃんたちがプラタナスの木を自分たちのこのように大切にするのがよかった。 ・大切にしているものがなくなってしまうのは悲しいと思う。 	○感想の中心と根拠となる叙述を分けて考えるのではなく、必要に応じて、心に響いた言葉や文を先に確かめ、そこから感じたことが何かを考えさせるようにする。
4 感想の根拠となることをはっきりさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・叙述から ・自分の体験から 	◎一文で書いたことについて、そう書いた根拠を叙述や自分の経験と比べて書きましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・「このプラタナスの木が公園全体を守っている、とってもいいくらいだ。」 ・「一本一本の木とその根が、ずっと昔から森全体を守り、祖父母の家だって守ってきたのだ。」 ・「お父さんのふるさとは、木がいっぱいあるだろう。みんなによろしく。」 	○「マーちゃん」や「おじいさん」の会話や行動、「プラタナスの木」に関わる叙述を中心に着目しながら、感想の根拠をはっきりさせるようにする。 ○考えの根拠となる叙述や経験を明確にしながら話し合うことで、読み取ったことが感想の中心に生かされるようにする。
5 書いた文を交流する。 (1) グループで交流する。 (2) 学級全体で交流する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【交流の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心に強く残ったことの似ているところやちがうところ ・根拠の似ているところやちがうところ ・交流を通して考えたこと </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述や自分の体験を基に、心に強く残ったことをまとめている。 <p>《ワークシート・発言》</p> </div>
6 もう一度学習材と向き合い、自分の考えを整理する。		○再度、学習材と向き合ったり、学びを整理したりすることで、叙述を大切に読みができるようにする。
7 本時の学習を振り返る。		
8 次時の学習を確認する。		○次時は、感想文を書くことを確認する。